©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所　湯川記念館史料室

〝世界の頭脳〟京に招く

来月ひらく「国際素粒子学会」

「新理論」へ方向づけ

来月二十一日から三十日まで十日間、京都会館を中心に、世界の理論物理学の〝頭脳〟約三十人とオブザーバー約三百人が集まり〝究極の物質〟素粒子のシンポジウムと国際会議を開くが、その具体計画が九日、京大基礎物理学研究所（所長・湯川秀樹教授）でまとまった。

小林教授　坂田教授　湯川教授　タム博士　ヤン博士

十日間にわたる学会の〝本体〟は二十四日から三十日まで一週間をついやして行なわれる素粒子国際会議。これは湯川博士の中間子論発表三十周年を記念して、日本学術会議（会長・朝永振一郎東京教育大教授）が主催するが、国理論の協力者として知られる坂田昌一名古屋大教授、小林稔京大教授らが準備を進めている。

九日までに出席を確約した外人学者はノーベル物理学賞受賞のI・E・タム（ソ連）C・N・ヤン（楊振寧＝米）をはじめ十七人。わが国からは湯川、小林、坂田各教授のほか、米国で研究中の南部陽一郎（シカゴ大）渡辺慧（エール大）両博士ら十人が出席する。

成果をあげるため正式出席者の数は極力しぼられたが、オブザーバーの資格で参加する学者は約三百人にのぼり、これほど大がかりな学会が開かれるのはさる二十八年の国際理論物理学会議いらい十二年ぶり。

会議の内容は核力、素粒子の模型、統一場と時空構造、超量子論の各テーマ。過去三十年間にわたり発展してきた素粒子論のあとを振りかえって総括、意見を交換するなかから各学者のもつ理論の成立背景、指導原理をさぐり出し、実験事実や理論が豊富になりすぎた素粒子物理のこんごの方向を見い出そうとするのが基本線。

また、同会議にさきだち、二十一日から二十三日まで三日間、京大基礎物理学研究所主催の素粒子シンポジウムが行なわれる。これは後続の国際会議と表裏の関係をもつ〝地ならし会議〟で、正式出席学者とオブザーバーが一体となり、急速に進歩をつづける現代素粒子論の最先端が報告、討論され、国際会議にも反映して新理論形成への道を開くいとぐちが発見されるのではないか期待される。

また、二十三日は日本物理学会主催、京大、阪大後援で記念講演会が開かれ、ローゼンフェルド・コペンハーゲン理論物理学研究所教授、坂田教授の二人が湯川博士の業績をたたえて特別講演、このあと二条城庭園で祝賀ガーデン・パーティーが催される。

c073-001-019

世界の頭脳27日

京都の素粒子国際会議　出席者、日程決まる

ノーベル賞を受賞した湯川秀樹京大教授の中間子理論が発表されてことしで三十年になるのを記念して、日本学術会議の主催で九月二十四日から月末まで中間子理論三十周年記念素粒子国際会議が京都で開かれるが、その準備や出席する学者の顔ぶれが決まった。会議には楊振寧（米）J・E・タム（ソ連）湯川秀樹教授ら三人のノーベル賞受賞学者をはじめ日本を含めた世界の十一ヵ国の理論物理学界の一線級学者二十七人が出席し、素粒子理論の今後の方向や、新しい理論構成の場について討論する。

スケジュールと出席者の顔ぶれつぎのとおり。

【日程】素粒子シンポジウム（京都会館）二十一、二、三日（二十三日午後はローゼンフェルト・コ賀会）▽素粒子国際会議（京都会館）二十四、五日（テーマ＝核力、素粒子の模型）二十六日（休み）二十七、八日（テーマ＝統一場と時空構造、超量子論）二十九日（見学）三十日（一般討論）

【出席者】H・J・バーバ（インド）D・I・プロヒンツェフ（ソ連）D・J・ポーン（英）F・ポップ（独）M・L・ゴールドバーガー（米）H・S・グリーン（オーストラリア）N・イワネンコ（ソ連）N・ケムマー（英）小林ローラー（デンマーク）中村誠太郎（東大）南部陽一郎（シカゴ大）L・ローゼンフェルト（デンマーク）坂田昌一（名大）M・シェーンベルグ（ブラジル）武谷三男（立教大）J・E・タム（ソ連）谷川安孝（神戸大）内山竜雄（阪大）L・バン・ホーフェ（スイス）G・ワタキン（伊）渡辺慧（エール大）G・ウェンツェル（米）楊振寧（米）湯川秀樹（京大）

c073-001-020